

2012年

JA越前たけふ「水稻重点技術対策」

越前たけふ米(特選しきぶ米)のブランド力を高めていくため、「重点技術対策」に取り組み、消費者から信頼される「高品質」で「良食味」な米づくりを実践しましょう。

目標

特別栽培実施面積 500ha (コシヒカリ450ha、あきさかり50ha)

タンパク質含有率(水分補正後) 5.3%以下(食味値85以上)

1等級比率 平坦地85%以上 山間地95%以上

1. 特別栽培の取組を拡大し「安全・安心・信頼」日本一を目指しましょう

- 全国に先んじて特別栽培化を進め、消費地や卸業者に「環境にやさしい米づくり」をアピールすることで、越前たけふ米のイメージアップを図りながら、少しでも「高く売れる米を作ろう」という生産者の努力が十分に報われるよう、品質や食味の一定基準を超えるものには新しい買入制度を実施することで、意欲ある生産者を支援します。
- 品質の良い山間地では全戸でコシヒカリの特別栽培化、平坦地においては大規模経営体を中心にあきさかりを含めた特別栽培化と直播栽培の導入により労働力や熟期の分散を図り、品質向上を目指しましょう。

2. 気象変動に負けない土づくりと作土深15cmの確保を！

- 管内の水田は土壌の保肥力、腐植含量が低だけでなく、けい酸値は基準値の15.0mg/100gより著しく低い状況が慢性的に広がっています。このため、今後とも天候に左右されずに水稻の収量と品質・食味の安定化を図るために、土づくり肥料(特に珪酸質資材)の継続した施用が絶対的に不可欠です。
- おいしい、登熟の良い米づくり、産米の大粒化には、稲の根の分布を拡げ、健全な発達が求められるため、丁寧な耕うん作業で、作土深15cmをしっかりと確保しましょう。

3. 適期に播種、健苗田植えで出穂時期の早限を8月10日以降に！

- 登熟初期の高温による品質低下を防ぐため、コシヒカリやあきさかりの出穂期が8月10日以降となるよう、播種期は平坦地で5月2日、山間地で4月23日以降、田植えは平坦地で5月20日、山間地で5月15日以降としましょう。
- 田植え期にあわせた適期播種を徹底し、老化していない、元気な苗を植えましょう。

4. 溝きり、中干し、穂肥の施用、水管理を徹底しましょう

- 登熟期の高温に負けない強い稲づくりのため、しっかりとした中干しと溝きりで無効分けつ抑制と直下方向への根の伸張を促進しましょう。
- 平坦地や特別栽培(無化学肥料栽培)では出穂期以降の栄養凋落が懸念されるため、穂肥の施用を省略せず、間断通水を徹底しましょう。

平坦地では、小柄な稲づくりを目指しましょう。(多収栽培から高品質栽培への転換を)

高温登熟により品質が低下しがちな平坦地では、基肥は少なく、穂肥は確実に。



□「疎植・細植え・適正肥料」の徹底 □

- ・ 栽植密度を50株/坪以下、1株の植え付け本数を3~4本としましょう。
- ・ 基肥窒素を減肥し、適正な籾数を確保しましょう。
- ・ 穂肥が必要な栽培体系では、穂肥は省略せず、必ず施用しましょう。

24年産米のインセンティブ買入制度

～コシヒカリ、あきさかりで特別栽培米に取組もう！～

品質低下の著しい平坦地では、あきさかりの特別栽培米をすすめてほしい。

インセンティブとは

人や組織のモチベーション（やる気）を誘引するもの。代表的なものとして金銭的報償、社会的評価、自己実現の場の提供などがある。

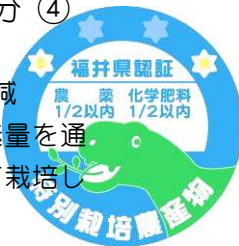
金銭的報償には、基本的な対価のほかに、個人の成果が目標に対する達成度などの基準を満たした場合、それに応じて個人に支払われる「インセンティブ・システム」がある。



■ 福井県特別栽培農産物認証制度

初心者コース 認証区分 ④

農薬：当地比5割以上減
化学肥料：当地比5割以上減
農薬成分や化学肥料の窒素量を通常と比べ5割以上削減して栽培した農産物。



■ ～安全・安心を食卓へ～

中級コース 認証区分 ③

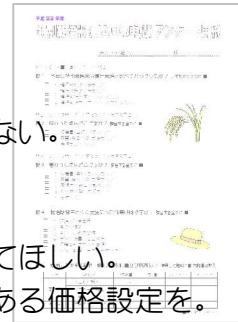
農薬：当地比5割以上減
化学肥料：栽培期間中不使用
農薬成分を通常に比べ5割以上削減して、化学肥料窒素を使用しないで栽培した農産物。



インセンティブ買入制度の対象は、県の認証についてJA越前たけふの団体申請、指定農薬成分以内の使用を行った者のみとします。品種はコシヒカリに加え24年度よりあきさかりもこの対象となります。整粒歩合や食味値を測定するため、倉前出荷（良質米施設を含む）が原則ですが、カントリーでの受入れについても現在検討中です。

■ 23年度特別栽培取組み農家の声 ■ ～アンケート調査より～

- ・整粒値、食味値ともに高く設定され、期待感が持てない。
- ・2等になった場合は、慣行栽培米と一緒な価格になることに納得がいかない。
- ・価格差がないのなら、量をたくさん獲った方がよい。
- ・特別栽培米のカントリーへの出荷対応と買入制度も考えてほしい。
- ・コシヒカリ以外の品種についても特別栽培やインセンティブの対象としてほしい。
- ・除草管理や穂肥の散布など通常より多大な労力を要するため、見返りのある価格設定を。



■ 24年産米のインセンティブ買入制度 ■ ～いいものには良い評価を～

平成24年度の水稲生産にあたり、特別栽培コシヒカリならびにあきさかりの高品質、高食味米について以下のとおり買入（概算金、加算金の支払い）を行います。

単位：1俵あたり

品種	特別栽培1等			特別栽培2等
	整粒判定 70%以上		右記以外	
	食味値 85以上	食味値 80以上 85未満		
コシヒカリ	17,000円概算	15,000円概算	慣行比 1,000円加算	慣行比 500円加算
あきさかり	慣行比 800円加算			-

こだわりの米（安全・安心且つ外観が良くおいしい米）の生産を支援します！

特別栽培コシヒカリ あきさかりごよみ（移植栽培）

□ ひとつの農薬成分の使用回数は栽培期間中いずれも1回まで □

24年産

月	生育時期	あきさかり認証区分④ (減農薬・減化学肥料栽培)		コシヒカリ認証区分③ (減農薬・無化学肥料栽培)	
		作業項目	肥料・農薬	作業項目	肥料・農薬
9	23年産作物収穫	24年産のスタート (大麦の場合は6月から)		24年産のスタート (大麦の場合は6月から)	
10	土づくり	土改材散布 秋耕し	ケイカル500kg/反 (JA助成有) 作土深15cm以上の確保	土改材散布 秋耕し	ケイカル500kg/反 (JA助成有) 作土深15cm以上の確保
10~12月の間2ヶ月間		「ふゆみずたんぼ」 冬期湛水管理			
4	育苗期	播種	温湯消毒済種子を使用 (JA委託) ダコニール1000 0.5ℓ/箱 嵐プリンス粒剤 50g/箱 くみあい床土	播種	温湯消毒済種子を使用 (JA委託) ダコニール1000 0.5ℓ/箱 嵐プリンス粒剤 50g/箱 くみあい床土 (有機肥料使用)
5	移植期	耕起・整地 田植え	すご稲有機355 50kg/反 ダブルスターSB粒剤 1kg/反 (ジャンボ剤の使用も可)	耕起・整地 田植え	しきぶ有機666 60kg/反 ダブルスターSB粒剤 1kg/反 (ジャンボ剤の使用も可)
6	活着期	溝きり	クインチャー粒剤 1~1.5kg/反	溝きり	クインチャー粒剤 1~1.5kg/反
	有効分げつ期 無効分げつ期	中干し 一斉草刈りデー	ラウンドアップ液剤 (畦畔) しきぶ有機811 10kg/反 しきぶ有機811 10kg/反 山間地では7kg/反を2回	中干し 一斉草刈りデー	ラウンドアップ液剤 (畦畔) しきぶ有機811 25kg/反 しきぶ有機811 25kg/反 山間地では20kg/反を2回
7	幼穂形成期	出穂期	ダントツ剤 スタークル剤	出穂期	ダントツ剤 スタークル剤
8	登熟期	登熟期	 特別栽培米 現地作見会	登熟期	 出荷された 特別栽培米
9	成熟期 収穫期	刈取		刈取	
24年産作物収穫		翌年産のスタート (そばの場合は11月から)		翌年産のスタート (そばの場合は11月から)	
10	土づくり	土改材散布 秋耕し	ケイカル 500kg/反 (JA助成有) 作土深15cm以上の確保	土改材散布 秋耕し	ケイカル 500kg/反 (JA助成有) 作土深15cm以上の確保
10~12月の間2ヶ月間		「ふゆみずたんぼ」 冬期湛水管理			

24年度より特別栽培認証の申請期限が3月末に変更になりました。

24年産の栽培は既に始まっています。栽培ごよみに沿った取組を！

□ 23年産からの変更点とあきさかりの認証について □

- あきさかりの基肥については、コシヒカリと同様のすご稲有機355となっています。
- 無化学肥料栽培の初期生育や穂肥の速効性を勘案し、基肥と穂肥のALL有機肥料を変更しました。
- 直播栽培において紋枯病が多発しているため、本田での紋枯れ予防剤 (リンバー粒剤) を設定しました。この登録にあたり、いもち剤の変更 (イモチエース粒剤→オリゼメート粒剤) と種子粉衣の殺虫剤 (アドマイヤー水和剤) が使用できなくなりますので注意してください。
- JA越前たけふでは、けい酸補給と酸性土壌の改善のため、ケイカル500kg散布に対し、購入経費助成 (3,000円/反) と散布費用の支援 (2,000円/反) を行っています。